

20:35 預言者の仲間の一人が、【主】のことばにしたがって、自分の仲間に「私を打ってくれ」と言った。しかし、その人は彼を打つことを拒んだ。

20:36 そこで彼はその人に言った。「あなたは【主】の御声に聞き従わなかったので、あなたが私のところから出て行くと、すぐ獅子があなたを殺す。」その人が彼のそばから立ち去ると、獅子がその人を見つけて殺した。

20:37 彼はもう一人の人に会ったので、「私を打ってくれ」と頼んだ。すると、その人は彼を打って傷を負わせた。

20:38 それから、その預言者は行って、道端で王を待っていた。彼は目の上に包帯をして、だれだか分からないようにしていた。

20:39 王が通りかかったとき、彼は王に叫んで言った。「しもべが戦場に出て行くと、ちょうどそこに、ある人が一人の者を連れてやって来て、こう言いました。『この者を見張れ。もし、この者を逃がしでもしたら、この者のいのちの代わりにおまえのいのちを取るか、または、銀一タラントを払わせるぞ。』」

20:40 ところが、しもべがあれやこれやしているうちに、その人はいなくなっていました。」すると、イスラエルの王は彼に言った。「おまえは、そのとおりにさばかれる。おまえ自身が決めたとおりに。」

20:41 彼は急いで目から包帯を取った。そのとき、イスラエルの王は彼が預言者の一人であることに気づいた。

20:42 彼は王に言った。「【主】はこう言われる。『わたしが聖絶しようとした者をあな

たが逃がしたので、あなたのいのちは彼のいのちの代わりとなり、あなたの民は彼の民の代わりとなる。』」

20:43 イスラエルの王は不機嫌になり、激しく怒って自分の宮殿に戻って行き、サマリアに着いた。20:26 年が改まると、ベン・ハダドはアラム人を召集し、イスラエルと戦うためにアフェクに上って来た。

神に従うか、自分の都合や人情打算に従うか…その問題が端的に表されています。時に主は従わない者に厳しく望まれますが、それは命に関わるからです。100年足らずの命ではなく、永遠の命です。

この預言者の仲間が獅子に殺されたのも理解しづらいのですが、ここは王国とその民の将来がかかっている場面であり、すなわち多くの人の命を左右する場面でもあったのです。王に対して何とか神の御心を理解させなければならず、そのためには通常ではない方法が必要でした。この預言者の仲間はその方法を拒んだのでした。神よりも人情を優先させることは、決して美談ではないことを知りましょう。

王が敵を聖絶しなければならないのは民の命を守るためであり、見張りがその使命を果たすのは味方の命を守るためであるということが、ここでは表されているようです。

命、特に永遠の命の大切さを覚えましょう。そのための主のご命令と厳しさは、何としても永遠の命を与えたいという主の愛であることも知りましょう。そして主の愛の命令に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

